

## ～お葬儀屋さんのひとりごと～

### 香典返し

香典のお返しは49日の忌明け法要のあとに、忌明けの報告とお礼をかねて行います。現在では当日にお返しすることも多くなりました。その際には香典額の2分の1から3分の1くらいの品物を、礼状を添えてお返しするのが一般的です。

香典返しの商品は、シーツ、バスタオル、ハンカチ、緑茶、石鹸、椎茸、コーヒーセット、砂糖など、どこの家でも使う日用品が主に使われています。

弔事用ののし紙に「志」と表書きし、その下に喪主の姓名を書きます。なお、香典返しを受けた場合には、それに対する礼状は出さないことになっています。

#### ●その他

神式の50日祭での忌明けの香典返しには表書きに「偲草」（偲び草、しのび草）とします。キリスト式では表書きは「志」（「偲草」を用いることもあり）とします。挨拶文は、仏教用語を使用しないようにします。

### 年忌法要

死者の追善供養のために、祥月命日に行なう仏事を年忌法要といい、1・3・7・13・17・23・27・33年と、3と7のついた年に実施しています。一般に33回忌で終わりますが、なかには50回忌まで勤めるところもあります。一周忌を満で、回忌は死亡した年を数えて計算します。

#### ●準備

年忌法要を行なうには、命日の一ヶ月前に日時、場所、時間を僧侶に相談して決定し、そのあと親族にその旨連絡をします。

当日は法要、食事、墓詣りをしますが、参列者の数が確認できたら、引物の手配をします。

#### ●併修

祖母と祖父など祖先の年忌が重なって訪れた場合には、命日の早い方に合わせて、同時に法事を行います。これを併修といいます。併修の場合には、案内状や引物にもその旨を明記します。

#### ●いわれ

民俗的な伝承では、人は死んで仏（ホトケ）になるとされています。

しかしこの仏（ホトケ）のお位牌は、まだ個性や煩惱が残っているため、仏壇の中に安置されています。33回忌の「弔いあげ」を迎える時分には、仏（ホトケ）はその個性を失い、先祖の神となって家を守るといわれています。従ってそれまでの間は、子孫は追善供養をしてホトケの世話をするのです。年忌の終りである、「弔いあげ」「問い切り」には、位牌を墓地や寺に納めるところもあります。

### 有名人の遺言状・・・

#### ◆ 辻村伊助の遺言

日本人登山家のパイオニア辻村伊助（1886～1923）は、38才の時に関東大震災で死亡した。焼けあとから発見された彼の遺書には、「遺骨または灰をなるべく保存せざることを。万一遺灰を保存するときは、ごく少量に留め、適当の時期に、スイス国内高山の頂きに埋めるか、あるいはいずれかのクレバスに投ずること」とある。なお遺骨は比叡山延暦寺に納められた。

#### ◆ 菊池寛の遺書

雑誌『文芸春秋』の生みの親で、作家の菊池寛（1888～1948）は、新年を迎えるたびに遺書を書き直していたという。そのなかの一節

「私はさせる才分無くして文名を成し、一生を大過なく暮らしました。多幸だったと思います。」